

CHERIA チエリア

vol. 62
2021. Winter



写真提供：阿部総合法律事務所

石坂 照子

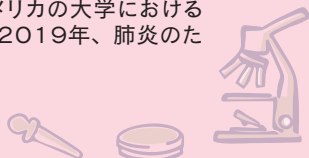
1926年山形市生まれ。免疫学者。
山形第一高等女学校（現在の山形西高）を総代で卒業。
東京女子医学専門学校（現在の東京女子医大）に進学。
在学中から国立予防衛生研究所（現在の国立感染症研究所）で研究を始め、そこで将来の夫となる公成氏と出会う。医専を首席で卒業し、公成氏と結婚。東京大学で医学博士号を取得すると、夫妻でアメリカのカリフォルニア工科大学に留学。1966年、夫の公成氏との共同研究により「免疫グロブリンE」を発見。その後も公成氏と研究を続け、パサノ賞、ガードナー国際賞など数々の賞を受賞。1979年には、ジョンズ・ホプキンス大学医学部同大学教授に昇進。アメリカの大学における日本人女性教授の先駆けとなる。2019年、肺炎のため永眠。

CONTENTS

- 2-3 チェリアフェスティバル開催報告
- 4 知事表彰・キャリアアップセミナー
- 5 チェリア塾基本コース・チェリア塾実践コース
- 6 「やまがた女性のつながり緊急サポート事業」について
- 7 チェリアの仲間になりませんか？CHERIA登録団体紹介
- 8 パープルリボンプロジェクト報告・DV防止講座

表紙：やまがたの女性たち

61号から様々な分野で活躍された山形県ゆかりの女性たちを紹介しております。



チェリア フェスティバル

男女共同参画についての理解を深めるため、チェリア登録団体の活動発表や交流を目的に開催されたチェリアフェスティバル。今回は2年ぶり、リニューアルした遊学館では初めての開催となりました。オープニングアトラクションや記念講演会、ワークショップや展示発表など、たくさんの方にご来場いただきました。

山形 2021

ちがいを超えて
未来へ紡ぐ八＝モニ＝

日時 2021年10月2日(土)～10月10日(日) 会場 遊学館 (山形市緑町1-2-36)

タイトルコール



10月3日(日)講演会に先駆けて行われた開会式。実行委員によるタイトルコールが行われました。

オープニングアトラクション



「マリンバピッチャー」による華麗な演奏が会場を盛り上げました。

講演会会場



今年の記念講演会の講師は、相模女子大学特任教授の白川桃子さん。オンライン配信での開催となりましたが、たくさんの方が集まった会場は、静かな熱気に包まれておりました。

の試みです。よく30%という数字について聞かれます。30%は重要な数字なんです。変化が起きるクリティカルマスと呼ばれる数字です。例えば男性の会議、10人の会議の中に女性が1人入ると、その2人は対立させないように仕向けられてしまう。協力できない。そして3人になって初めてそれぞれ意見が言える。この状態が30%です。そして、今、ジェンダーギャップの問題がどこまで進んでいるのかという話。ジェンダーギャップというのは平時の時にあるわけなんです。しかし、その一番悪い部分が出るのが危機の時、つまりコロナのよくなる危機が起きた時です。女性は男性の1.8倍失業し、そしてなんと女性の自殺者が例年になんども増えているんです。男性の自殺、女性の自殺というのを考え、前年同月期女性の自殺がすごく増えている状況にあります。そして地方の課題。地方都市の人口減少対策として、子育て支援がなかなか進んでいない。子育て支援の前の段階で女性が出て行って帰って来ないんです。女性の可能性が狭まる。生き方が限定される。そういう土地から女性は出て行って帰ってこないわけなんです。なぜ、女性がいきなやいけないのか。それは多くの組織、それから国、さまざまなものがあるからなんです。そこには多様な性、同質性のリスクというのがあります。例えば日本の政府、とっても同質性が高いです。そこで何が起きているか、今コロナの対応も批判がされてきたけど、やっぱり一番の問題は一度決定したことは開通すると思っても進まないというところがある。同質性による見落としと聞いているのは、今まで同じような人たちで議論しているのが、気がつかないんです。同調圧力、悪い情報を入れない。これが同質性の一番怖いところなんです。誰も自分から生きるために有害なステレオタイプをなくしていく、これはとても重要なことだと思えます。まずは男も女もつらいステレオタイプをなくすに

は、自分の中にはどんなステレオタイプや偏見があるか知ること、気がつくこと。そして偏見があるなら、あるんだと、あるけどこれが行動になると、差別にならないように気を付けよう。そういう風な思考が、みんなまで思っていくことが重要だと思えます。働き方はコロナ禍で、今まで全然違ってなかつたのにテレワークが急速に普及してしまつた。コロナ前は、テレワークを導入しているような企業で2割以下、そして利用している社員は5%未満という企業が半分以上でした。つまり誰もやつたことがなかつたんです。ところが緊急事態宣言を経てテレワークということがとにかくやってみようというところになった。強制のだったんです。しかし、大混乱した。テレワークというのは本来は場所や時間を有効に活用する柔軟な働き方によって、場所も在宅限定ではないんです。今後はいろんな働き方を選べるということが重要になってくると思えます。今度、一番重要なのは男性育児で男性の行動が変わると、初めての男女共同参画、そしてジェンダー平等に対しての大きなチャンスが来ます。育児取得率の公表義務があります。これが来年の春、そして10月からは男性育児が始まります。今後、男女共同参画の一番のキーは男性なんです。女性がどうするかはもう問題ではないというか、女性だけに頼られちゃなくて、社会全体、特に男性側が行動を変えてください。これは、男性が子育て脳を獲得する重要なチャンスでもあります。これが何が起こるかと言ったら、男性が、子育てを自分ごととして取り戻すこととなります。そうすると効率的な働き方、それから自分だけが抱えている仕事をみんなにシェアする、仕事の俗人化がなくなり、働き方改革にもっとも良い影響が起きます。多くの人たちが「よかった」と言っているのが男性の産休です。ぜひ皆さんで男性育児、しっかりと取ってもらえるように広めてください。

県民交流コーナー



バルーンアートやマーケットなど、たくさんの方でにぎわっておりました。

演題「コロナ後の働き方暮らし方」(要旨)

講師 相模女子大学特任教授 白河桃子氏

今日は「コロナ後の働き方暮らし方」ということで、コロナ後、女性のリーダーがとて必要とされているんだということに関していくつもの資料を共有してプレゼンをさせていただきますのでよろしくお願いたします。今「女性活躍しましよ」とか「女性リーダー必要です」と言われていますが、結構女性はモヤモヤしています。なんで女性だけそんなこと言われるの？活躍しないといけないの？もう今のところだけで手一杯なのに？よく女子学生なんかからもそういう話を聞きますよね。みんな「女性活躍」ということは嫌なんです。モヤモヤしている。なんでなら、女性だけ頑張らなくていいからでいいよね。活躍しないのはよく、フェアに働きたい。これは野田聖子さん第2次岸田内閣内閣府特命担当大臣、女性活躍担当がおっしゃったフェアネスの概念なんです。例えば、今日(10月3日)の日経新聞なんですけど、ご覧になった方いらっしゃいますでしょうか。なんと日経の一面が「育児男女差が際立つ日本。世界と日本の違いが育児に表れている。これをいかに男性が育児に参画しないことが出生率の低下と関連がある」という内容の見出しが躍るくらいなんです。やはり今、本当にその状況はフェアなんですけど、それが女性にだけがなばれと言っているのって、男性の役割はなんですか？ということが問い直される時代だということです。仕事に関する男女共同参画は、今ちょうどフェーズ3にきています。今まで女性にだけ活躍しろ、がんばれ、育児もやれと言っていたのが働き方改革で男女もワーク、ライフバランスを保ちながら柔軟な働き方をしていきますよ、このようなフェーズになったんです。そしてコロナで進んだ柔軟な働き方。例えば子連れで出勤したり、働く場所も自宅だけではなく、お子さんを見られるようなコワーキング

展示発表



日頃の活動内容や、子育て、男女共同参画に関する情報を展示しました。

ワークショップ



セミナーや体験企画など、多彩なワークショップが開催されました。

令和3年度「山形県男女共同参画社会づくり功労者等知事表彰」受賞者概要

功労者表彰

多年にわたり男女共同参画社会づくりにて顕著な功績のあった個人・団体を山形県知事が表彰している賞です。
令和3年度は、1名が受賞されました。

たかい せいこ
高井 晴子氏 (河北町)



チャレンジ賞

仕事や地域活動など様々な分野でチャレンジし活躍している個人・団体を山形県知事が表彰している賞です。
令和3年度は、1団体が受賞されました。

特定非営利活動法人
明日のたね (鶴岡市)

主な功績

平成25年、こどもたちの自然体験と世代を超えた遊びと学びの場の提供と、子育て世代の不安を解消する居場所をつくり、子育てしやすい環境を多世代の人たちと協働して作ることを目的とした任意団体を設立。
設立以来、自分らしく子育てできるよう寄り添い応援する子育て支援と、赤ちゃんから高齢者まで人と人がつながりともに育ち合う環境づくりを行ってきた。
多世代交流事業や男性が参加しやすい親子体験事業を開催し、地域を巻き込んで共に支え合う仕組みを構築し、広く発信するなど、男女がともに子育てをする地域密着型の取組は、他地域のモデルとなるものである。
仕事と子育ての両立の難しさから生じる不安を解消するため、子育てだけでなく再就職や生き方について共に考える機会を提供するなど、女性に自信と挑戦する勇気を与えており、多様な働き方、生き方へのニーズに多方面から応える取組は先駆的であり、女性の活躍に貢献している。
また、防災講座やフードントリーを開催する等、昨今の自然災害やコロナ下における地域ニーズを踏まえた課題に対応しており、今後も地域のけん引役として活動の広がりが期待される。

令和3年度やまがた女性キャリアアップセミナー ～イキイキと自分らしく働くために、対人関係能力を高める～

10月21日・11月11日遊学館にて、やまがた女性キャリアアップセミナーを開催しました。

本セミナーは、企業における女性の活躍を推進するため、キャリアを形成していくうえで必要な対人関係におけるヒューマンスキルやリーダーシップ等の基礎知識を習得するセミナーです。講師は、昨年に引き続き多くの研修指導の実績があるヒューマン・アプローチ研究会の代表幹事 安達隆司氏にご担当いただきました。

午前中の講義では、どんな職位であれ、相手と信頼関係を築くにはコミュニケーション能力が不可欠であることを学び、「聞き上手・質問上手」になる方法を体験するため、

2人ペアになり、傾聴のワークを行いました。
午後の講義では、社会で遭遇する4タイプの人の特徴を学び、自己診断で自分のタイプを明らかにするとともに、タイプに応じたコミュニケーションの取り方や、マネジメントやリーダーシップの知識についても理解を深めました。
受講生からは、「今日学んだことをすぐに職場で活かし、セミナー内容を同僚に伝えていきたい。」「職場で活躍されている同年代の方々と意見交換ができてとても参考になった。」といった前向きな感想が寄せられ、とても有意義なセミナーとなりました。



報告

チエリア塾 基本コース

企業や地域において、男女共同参画を推進するために、村山地区の女性を対象に「チエリア塾 基本コースin村山」が開催されました。山形市の遊学館にあるチエリア学習室を会場に6月26日から全5回行なわれ、14名の方が修了しました。男女共同参画の基本や、家庭や地域、勤務先等で私らしくいられるように思いを伝えるための学びも、コロナ禍の影響で一部の受講生がオンラインでの参加となるなど、例年とは異なるスタイルでしたが、新たな可能性も感じられました。最終講義のときには、共に学んだ仲間とのつながりも生まれ、今後も交流と学習を続けていくことを確認していました。修了生は、チエリア塾



は、チエリア塾15期生として、これまで学んだ先輩達とともにチエリア主催のセミナー等でファシリテーターや講座の支援も担うネットワークの会員になることも可能で今後の活躍に期待です。

第一回 男女共同参画って何？

私のモヤモヤと関係あるかも？
【講師】山形大学名誉教授 高木直氏
受講生の声「男性、女性関係なく、良い社会を作るのは、まだまだ時間がかかると感じた。」「男女共同参画が進まない理由が理解できた。受講生一人ひとりの小さな一歩・実践が大きな広がりにつながるよう期待が持った。」

第二回 「キャリアデザイン」自分ができること

【講師】有限会社テック取締役社長 尾形恵子氏
受講生の声「『コンフォース』、『バイス』(無意識の偏見)について、まだまだ自分の見方も偏見だらけだと思った。」「キャリアプランのワークは、これから何をすべきか考える良い機会だった。」

第三回 「コミュニケーション」は双方向

【講師】国際コーチング連盟/ロイヤル認定コーチ 木須八重子氏
受講生の感想「話の伝え方について楽しく学ぶことができた。」「身近なことをみんまで考え、発表出来た良かった。」

第四回 「わたしたちは今どこにいるのか」

【講師】山形県男女共同参画センター館長 伊藤真知子氏
受講生の声「(私の)コロナ禍での現状等も具体的に例に出していただき、わかりやすかった。これからどうしていくべきかの指針も見えた。」「自分自身のモヤモヤが解消されました。」「以前より前向きに考えられるようになったと思う。」

第五回 「今日はゴールをスタートに変える日」

【講師】一般社団法人ちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬隆人氏
受講生の声「地域づくり」とは、ひととの繋がり、知人や友人を増やす活動である。」「この話から、これからの活動が見えた。」「つながりの大切さを改めて感じた。」

報告

チエリア塾 実践コース

チエリア塾実践コースは、基本コースの修了生を対象とした、事業企業や具体的な事業運営などの実践力を身につけることを目的とした学びの場です。今年度は、5名の塾生が取り組みました。

4月には第1回開催前の助走としてオンライン交流会を開催。講師である一般社団法人ちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人氏から、プログラムの全てを皆で考え、最上地域にあったチエリア塾を作ったほしい」と提案いただき、各回のサポートと塾生それぞれの学びや気づきを「もがみチエリアの会」がアシストできるよう進めることとなりました。

第1〜3回までは、受講生それぞれが抱えるモヤモヤにとことん向き合い、自身の課題を社会の課題として捉えた企画づくりの目的に對話を重ねました。自主企画講座は、役割分担して準備することで各々が責任を持って取り組み、当日は大勢の方々に参加いただくことができました。そして、自主企画講座だけでなく、2年に渡ったチエリア塾での学びから得たもの、自分らしい輝き方について考え、それぞれを共有しました。



参加いただくことができました。そして、自主企画講座だけでなく、2年に渡ったチエリア塾での学びから得たもの、自分らしい輝き方について考え、それぞれを共有しました。

第一回 5月15日(土)

基本コースのふりかえり
実践コースの概要理解
もぐお互いのことを知ろう！

第二回 6月12日(土)

講座の企画立案
現状を把握し課題を見つける、目的と方法・手段を考える

第三回 7月17日(土)

講座の企画を学ぶ
目的やテーマを深める、内容を具体化する、講座運営を学ぶ

第四回 11月14日(日)

自主企画講座 11月14日(日)
もしかしてこれって更年期？
女性ホルモんとカラダのトリセツ

自主企画講座をふりかえり
ふりかえりから今後を見定める



CHERIA登録団体紹介

さくらんぼ水遊会

さくらんぼ水遊会は、昭和51年に山形市が霞城室内プールの開設を機に、市教育委員会が主催する「婦人水泳講習会」を修了された方々の有志によって結成されたのが始まりです。

発足時は11名から会員も増え、会員の中から（公団）スポーツ協会公認の指導員資格を取得して、毎週3回の水泳の活動を始めました。さらに、県内水泳普及指導、各種水泳大会への競技役員としての支援等を行ってきました。

また会員皆さんは、生涯スポーツを目指すとして、県内をはじめ東北、日本国内、そして世界マスターズ大会へ参加するなど、水泳を愛好する会へと発展してきました。



毎年4月の総会をもって年間の活動計画を決めて実行して、4年後には発足50周年を迎えます。

昨年から、コロナ禍により年間行事は休んでいますが、現在は山形市総合スポーツセンター屋内プールが使用出来る限り密を避け、毎週2回皆元気に楽しく泳いでいます。



【お問い合わせ】
〒990-0031 山形市十日町 3-10-41 長岡 八重子
TEL:023-631-8035

チェリアでは団体・グループを登録制度を設けています。随時受付中！詳しくはチェリアまで！

～もっと知りたい！チェリア団体登録について～

チェリアに登録するとどんなことができるの？どんなメリットがあるの？

チェリアでは登録団体を募集しているけれど、登録団体になるとどんなメリットがあるの？

そうですね。例えば、団体活動室や学習室、印刷機が無料で利用できるから、集まるときの場所代やイベント資料の印刷代がかからなくなるのはメリットかな。

あと、ロッカーも利用できるよ。

他には？

チェリア主催のイベント・事業の案内や、広報誌「チェリア」を送ってもらえるから、講座やイベントの情報が確実に得られるよ。

チェリアになかなか行けないときもあるから、それは助かるね。

それから、ホームページに団体の紹介を掲載してもらえるから、自分たちがどんな活動をしているか、広く知ってもらえることができるよね。

ふーん、なるほど。たくさんの人に自分たちの活動を知ってもらって、一緒に活動する仲間が増えていくとうれしいな。

それだけでなく、他の団体の人たちともチェリアフェスティバルやいろんな活動を通じてつながっていくことができるし、関係も深めていくことができるんだよ。

そういうのって、男女共同参画社会やジェンダー平等を実現していくのに大切なことだね。団体登録、してみようかな。

「やまがた女性のつながり緊急サポート事業」について



コロナ禍で、ひとりで悩んでいませんか？



新型コロナウイルス感染症の問題が長引く中で、非正規雇用労働者の割合が高い女性の雇用や生活への影響が続いています。また、外出自粛の長期化により望まない孤独を感じ不安を抱え、社会的に孤立する女性も増えています。

山形県では「やまがた女性のつながり緊急サポート事業」を開始しました。チェリアでは、悩みを抱えた女性に寄り添いながらさまざまな支援を行うと同時に、県内において女性支援を行うNPO団体等をサポートします。

具体的な支援・サポート

女性が安心して気軽に立ち寄れる交流スペース

県内各地域に、交流スペースを開設している団体があります。さまざまなイベントやセミナーも開催されていますので、お気軽にお立ち寄りください。

生理用品の配布

県の関係機関やNPO団体などで生理用品の無料配布を行っています。※生理用品をお受け取りの際には簡単なアンケートにご協力ください。

WEBアンケートの実施

女性が普段感じている、生理についての実情についてアンケートを実施します。
みなさんが普段感じている、生理についての実情をぜひお聞かせください。



※詳細については、県内各所においてある右のリーフレットもしくはチェリアHPにてご確認ください。

「女性に対する暴力をなくす運動」 パープルリボンプロジェクト 2021 in YAMAGATA



暴力のない社会の実現に向けて、毎年11月12日から25日に内閣府で実施する「女性に対する暴力をなくす運動」にあわせて、「パープルリボンプロジェクト2021 in YAMAGATA」を開催しました。

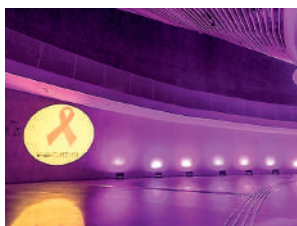
パープルリボンは女性に対する暴力根絶運動のシンボルです。

DV防止をテーマとしたパネルの展示とパープルリボンやリーフレットの配布を行いました。ツリーは、来場された方から飾っていただいたたくさんのパープルリボンのオーナメントでプロジェクトを象徴する姿となりました。



遊学館2階ギャラリー

パープルライトアップ ～今年は県内7か所の建物がライトアップされました～



【鶴岡市】 荘銀タクト鶴岡



【山形市】 郷土館「文翔館」



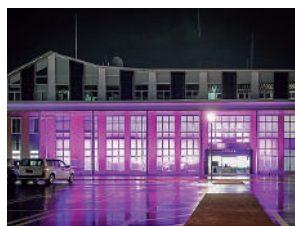
【米沢市】 旧米沢高等工業学校本館



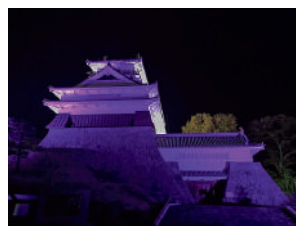
【酒田市】 日和山公園六角灯台



【寒河江市】 慈恩寺テラス



【川西町】 川西町役場庁舎



【上山市】 上山城

令和3年度「DV防止講座」を開催しました

開催日 令和3年11月23日（火） 講師 さとこ女性クリニック 院長 井上聡子 氏

タイトル 「大人こそ学びましょう!～文部科学省「生命の安全教育」とは?～」

性犯罪・性暴力は、被害者の尊厳を著しくふみにじる行為であり、心身に重大な悪影響を及ぼします。令和4年度までの3年間を性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」とする政府の方針をふまえ、子供たちが性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないよう、全国の学校において「生命（いのち）の安全教育」を推進することになりました。この機会に、「大人こそ学びましょう!」ということで、今回はさとこ女性クリニック院長の井上聡子先生をお招きし、性犯罪・性暴力の根絶に向けて「生命（いのち）を大切にする」ための「生命の安全教育」についてご講演いただきました。

編集後記

コロナの感染拡大が落ち着きを見せました。“危機”とは危険と機会を合わせた言葉、この国難をチャンスに変えるのも今なのだと思いました。(恵子) 一部オンラインも活用し、ハイブリット開催となったチェリア塾基本コース。学びを終えた修了生の皆さんの今後に期待します!! (弘美) 今号は今までで一番難しい編集作業でした。これからも編集能力向上を目指しより良いものを届ける努力をしていきたいと思っています。(直子)

山形県男女共同参画センター チェリア

〒990-0041 山形市緑町1-2-36 遊学館2階
TEL 023-629-7751 FAX 023-629-7752
相談専用電話 023-629-8007
HP <https://www.yamagata-cheria.org/>
利用時間 午前9時～午後9時
※夜間利用の申し込みがない場合は午後8時まで
休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始
令和3年12月発行
編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団



【車でお越しの方】
県営駐車場、遊学館駐車場をご利用下さい。
入退館時に駐車券を遊学館1階の総合案内へお出し下さい。
ご利用時間に応じて駐車料金が割引になります。

チェリア HPはこちら

